

# 平成30年度 事業報告

自 平成30年4月1日

至 平成31年3月31日

## 【I】基本方針

余暇時間の増大、高齢化の進行など社会環境の変化は、人々に健康志向によるスポーツの関心を高めています。また、昨年開催の平昌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会及び2018FIFAワールドカップロシア。更に、今年日本で開催されるラグビーワールドカップ2019とスポーツのビッグイベントが続き、2020年には、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。スポーツに寄せる関心は益々高まりを見せています。

このような情勢下、スポーツ科学の振興と健全なスポーツ活動の発展に寄与することを目的とする当財団ではこの期待に応えるべく、改めて事業の重要性を認識し、事業活動の推進を図ってまいりました。

健康の増進と体力向上及びスポーツに関連する学術研究の助成事業では、研究課題公募から財団選定テーマによる研究委託並びに研究助成を引き続き実施いたしました。

一方、公益財団法人日本スポーツ協会への助成を行い、国民スポーツのより一層の健全な普及・発展に寄与するとともに、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会への助成を行い、障がい者スポーツの普及・振興及び障がい者スポーツの国民理解の促進に寄与しました。公益財団法人日本オリンピック委員会に対しても、オリンピック事業の推進並びにトップレベルの選手育成・強化を目的として同様の助成を行いました。スポーツ関連科学の発展を目的として一般社団法人日本体力医学会、一般社団法人日本臨床スポーツ医学会、一般社団法人女性アスリート健康支援委員会へも助成を行いました。

また平成29年度の事業成果を広く関係者に公表するため、機関誌「デサントスポーツ科学」Vol.39を発行いたしました。

## 【II】事業報告

(1)健康の増進と体力の向上及びスポーツ関連科学に関する研究委託並びに調査・研究に対する助成。

1)研究委託(2件 各100万円、総額200万円)

自由課題研究の上位成績者の中から、学術委員及び事務局が推薦した者を理事会の諮問機関である学術委員会において審議、決定し下記2件に対し助成を行いました。

① 長時間のペダリング運動中のコンプレッションウェア着用が筋酸素動態、糖代謝および運動パフォーマンスに及ぼす影響

立命館大学 水野 沙洸

② 表面形状を考慮した低抵抗スポーツ用具の開発

2)自由課題研究 (35件 総額 2,000万円)

全国にわたる 134 の大学または、その他の学校、研究機関より応募された 192 件の課題の中から学術委員会の審査の結果、下記 35 件に対し助成を行いました。

《最優秀入選 (100万円)》

＜体力医学＞系

- ① 骨格筋の虚血プレコンディショニングは実用可能なのか？：食餌性硝酸塩併用も含めた検討

北翔大学 沖田 孝一

- ② 暑熱環境下の運動による脱水がヒト脳認知機能に及ぼす影響

奈良女子大学 中田 大貴

＜被服・工学＞系

- ③ 膝囲への衣服圧が下肢のむくみに及ぼす影響

神奈川大学 傳法谷郁乃

- ④ 繊維製面状発熱体を利用した快適レジャースキー、スノーボードウェアの開発

信州大学 木村 裕和

＜障がい者スポーツ＞系

- ⑤ 片大腿切断パラリンピックチャンピオンの走速度獲得メカニズムを探る

—deterministic model を用いた網羅的分析—  
産業技術総合研究所 橋詰 賢

《優秀入選 (各50万円)》

ジャンル＜スポーツと安全＞

- ⑥ 筋の遅筋線維および速筋線維の機能を考慮した筋の疲労・回復予測モデル

神戸大学 西田 勇

- ⑦ プロボクサーの試合前後における脳密度変化と脳ネットワーク解析：

スポーツ脳科学研究  
群馬大学 荻野 祐一

ジャンル＜運動生理＞

- ⑧ 寒冷環境を活かした低負荷での運動効果—筋量増加に働くマイオカインに着目して—

長崎大学 土屋 吉史

- ⑨ 毛髪コルチゾール濃度測定がオーバートレーニングを予防する生理指標となりうるか

筑波大学 越智 元太

- ⑩ 多周波インピーダンスを活用した筋肉内部温度の非侵襲的測定の試み  
宇都宮大学 小宮 秀明
- ⑪ 高強度運動による活性酸素（ROS）産生が循環機能に及ぼす影響  
東洋大学 小河 繁彦
- ⑫ 経口の食事により分泌が刺激される消化管ホルモンを利用した  
新規骨格筋増強策の開発  
豊橋創造大学 後藤 勝正
- ⑬ 下肢筋群の脊髄興奮性を評価する経皮的脊髄刺激法  
—縦断的評価法としての確立を目指して—  
東京大学 齋藤 輝
- ⑭ 筋の萎縮を検出する新たな尿中バイオマーカーとしてのコネクチンの役割の解明  
東京慈恵会医科大学 谷端 淳
- ⑮ 骨格筋におけるタンパク質分解系が運動機能に与える影響  
東北大学 長名シオン

ジャンル<バイオメカニクス>

- ⑯ 足底腱膜張力モデルを用いた扁平足に生じる足底腱膜炎の発症メカニズムの解明  
新潟医療福祉大学 高林 知也
- ⑰ 筋細胞レベルでの、筋線維組成が stretch-shortening cycle によるパフォーマンス増強に与える影響の解明  
立命館大学 福谷 充輝

ジャンル<医療・看護>

- ⑱ 登山行動中の血行動態の解明  
—マルチセンサー自由行動下 24 時間血圧計を用いた計測—  
自治医科大学 小森 孝洋
- ⑲ ジャックナイフストレッチが下肢筋タイトネスとキック動作に与える影響  
金沢大学附属病院 中瀬 順介
- ⑳ 小中学生のスポーツ障害発生に運動量や成長、下肢形態および柔軟性が及ぼす影響に関する検討  
千葉大学医学部附属病院 赤木龍一郎

- ⑳ 大腿四頭筋の反射機能異常が予測外の着地動作中の下肢筋の応答様式に与える影響  
防衛大学校 小西 優

ジャンル<トレーニング>

- ㉑ リラックスを習得するトレーニングの開発  
早稲田大学 加藤 孝基
- ㉒ 仮想現実感を利用した軽度認知障害を予防するスポーツビジョントレーニングシステムの開発およびその評価  
福井大学 高田 宗樹
- ㉓ 地域在住高齢者を対象とした運動強度の個別処方による速歩トレーニングの血管内皮機能に対する効果検証  
大阪医科大学 神谷 訓康
- ㉔ 高強度・短時間・間欠的トレーニングは抗肥満・抗糖尿病効果を有するかー褐色脂肪組織の活性化および活性化機構の解明  
国立病院機構京都医療センター 二連木晋輔
- ㉕ BMRT スロー法による健康増進への取り組み  
順天堂大学 中潟 崇
- ㉖ トレーニング期前後のスプリントパフォーマンス向上に伴う筋の形態的特徴の変化  
国立スポーツ科学センター 吉本 隆哉

ジャンル<食物・栄養>

- ㉗ 激しい運動はビタミンDの消費を促進するか？  
ーアスリートのビタミンD補給の必要性ー  
立命館大学 池戸 葵
- ㉘ 糖質制限食が消化管及び骨格筋機能に及ぼす影響の解明  
ー回復期の糖・タンパク質合成に着目してー  
滋賀県立大学 東田 一彦

ジャンル<用具・被服>

- ㉙ スキージャンプスーツ用生地を通気量と空力特性の関係解明と飛距離最大を目指した高性能スーツの提案  
宇都宮大学 前田 龍生
- ㉚ 先端工学を活用した脚のむくみ（浮腫）の包括的評価とその応用  
ースポーツ用弾性靴下の効果と作用機序の検討ー  
日本女子大学 佐々木一茂

- ③② ビジネスパンプス着用時における歩行動作へのヒールの高さ、年齢の影響  
横浜国立大学 薩本 弥生
- ③③ ウォーキングのトレーニング効果を促進する膝装具の開発～二足歩行ロボットと  
人工知能による筋活動推定研究に基づく装具プロトタイプ評価～  
早稲田大学 Sarah COSENTINO

ジャンル<障がい者スポーツ>

- ③④ 生体力学手法を用いた片側大腿切断者における走速度獲得メカニズムの解明  
東京理科大学 並木 優太
- ③⑤ 車イスエルゴメーターを用いたレースシミュレーション中の時空間パラメーターお  
よびパワー発揮特性の定量化から効率的なストローク技術の分析  
日本体育大学 柏木 悠

○学術委員（順不同、敬称略）

佐藤 祐造	井上 真理	押田 芳治
緒方 徹	梶原 莞爾	川原 貴
島崎 恒藏	下光 輝一	下村 吉治
田島 文博	田畑 泉	田村 照子
永富 良一	西松 豊典	西村 太良
平田 耕造	廣田 孝子	福永 哲夫
藤本 繁夫	吉岡 利忠	

○助成金交付 平成 30 年 7 月

○研究成果報告書提出 平成 30 年 12 月 8 日

- (2)スポーツ関連科学の発展を目的とする研究機関・団体の助成（300万円）
- 1)諸外国とのスポーツ科学における人的・学問的交流を積極的に推進するため、一般社団法人日本体力医学会への助成を行いました。
  - 2)スポーツ関連科学の発展を推進するため、一般社団法人日本臨床スポーツ医学会、一般社団法人女性アスリート健康支援委員会への助成を行いました。
- (3)スポーツの振興・発展を目的とする団体の助成（1,000万円）
- 1)国民スポーツのより一層の健全な普及・発展に寄与するため、公益財団法人日本スポーツ協会に助成を行いました。
  - 2)オリンピック事業の推進並びにトップレベルの選手育成・強化に寄与するため、公益財団法人日本オリンピック委員会に助成を行いました。
  - 3)障がい者スポーツの普及・振興及び障がい者スポーツの国民理解の促進に寄与するため、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会に助成を行いました。
  - 4)地域の草の根的なスポーツ活動の普及・発展に寄与するため、公益財団法人大阪コミュニティ財団に助成を行いました。

(4)機関誌の発行

平成 29 年度の事業内容を公表するため第 39 回研究成果報告書を中心とする「デサントスポーツ科学」Vol.39 を平成 30 年 5 月に発行し広く研究機関関係者に公表致しました。

(5)機関誌「デサントスポーツ科学」データベース化

当財団の機関誌「デサントスポーツ科学」は、体育学、健康科学、人間工学、被服科学など幅広い研究を掲載しており、信州大学繊維学部が推進している「産学連携情報提供支援データベース」に登録しております。これにより、機関紙の内容が世界に向けて公開されることとなり、併せて、学术论文の質的向上が図れることが期待できます。

以上

# 平成30年度決算報告書

## 貸借対照表

平成31年3月31日現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現金預金	17,583,120	18,719,353	△ 1,136,233
流動資産合計	17,583,120	18,719,353	△ 1,136,233
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	5,262,954,700	3,244,955,497	2,017,999,203
定期預金	30,000,000	30,000,000	0
基本財産合計	5,292,954,700	3,274,955,497	2,017,999,203
(2) 特定資産			
助成金準備資金	16,000,000	16,000,000	0
特定資産合計	16,000,000	16,000,000	0
固定資産合計	5,308,954,700	3,290,955,497	2,017,999,203
資産合計	5,326,537,820	3,309,674,850	2,016,862,970
II 負債の部	0	0	0
1. 流動負債			
未払金	0	0	0
預り金	12,252	12,252	0
流動負債合計	12,252	12,252	0
負債合計	12,252	12,252	0
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
基本金	5,292,954,700	3,274,955,497	2,017,999,203
指定正味財産合計	5,292,954,700	3,274,955,497	2,017,999,203
(うち基本財産への充当額)	(5,292,954,700)	(3,274,955,497)	(△556,974,391)
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	33,570,868	34,707,101	△ 1,136,233
(うち特定資産への充当額)	(16,000,000)	(16,000,000)	(3,000,000)
正味財産合計	5,326,525,568	3,309,662,598	2,016,862,970
負債及び正味財産合計	5,326,537,820	3,309,674,850	2,016,862,970

正味財産増減計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	10,718,778	11,566,000	△ 847,222
基本財産受取配当金	38,013,089	38,013,089	0
基本財産運用益計	48,731,867	49,579,089	△ 847,222
② 特定資産運用益			
特定資産受取利息	1,000	1,000	0
特定資産運用益計	1,000	1,000	0
③ 雑収益			
受取利息	366	220	146
雑収益	20,088	20,412	△ 324
雑収益計	20,454	20,632	△ 178
経常収益計	48,753,321	49,600,721	△ 847,400
(2) 経常費用			
① 事業費			
支払報酬	0	583,200	△ 583,200
会議費	2,129,604	1,733,694	395,910
旅費交通費	1,297,819	1,545,460	△ 247,641
通信運搬費	57,861	60,489	△ 2,628
研究助成費	23,874,000	18,525,000	5,349,000
支払手数料	629,856	50,436	579,420
支払寄附金	13,000,000	8,500,000	4,500,000
資料収集調査費	725,000	725,000	0
機関誌発行費	6,268,512	6,269,516	△ 1,004
雑費	300,000	0	300,000
事業費計	48,282,652	37,992,795	10,289,857
② 管理費			
支払報酬	0	583,200	△ 583,200
会議費	42,848	16,076	26,772
旅費交通費	273,030	347,355	△ 74,325
通信運搬費	57,066	77,838	△ 20,772
消耗品費	3,558		3,558
支払手数料	666,188	75,212	590,976
賃借料	116,640	116,640	0
顧問料	259,200	259,200	0
雑費	188,372	280,167	△ 91,795
管理費計	1,606,902	1,755,688	△ 148,786
経常費用計	49,889,554	39,748,483	10,141,071
当期経常増減額	△ 1,136,233	9,852,238	△ 10,988,471
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	
当期経常外増減額	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 1,136,233	9,852,238	△ 10,988,471
一般正味財産期首残高	34,707,101	24,854,863	9,852,238
一般正味財産期末残高	33,570,868	34,707,101	△ 1,136,233
II 指定正味財産増減の部			
① 基本財産評価益	2,017,999,203	591,681,994	1,426,317,209
② 基本財産評価損			0
当期指定正味財産増減額	2,017,999,203	591,681,994	1,426,317,209
指定正味財産期首残高	3,274,955,497	2,683,273,503	591,681,994
指定正味財産期末残高	5,292,954,700	3,274,955,497	2,017,999,203
III 正味財産期末残高	5,326,525,568	3,309,662,598	2,016,862,970



正味財産増減計算書内訳表

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位：円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	9,132,330	1,586,448	10,718,778
基本財産受取配当金	38,013,089	0	38,013,089
基本財産運用益計	47,145,419	1,586,448	48,731,867
②特定資産運用益			
特定資産受取利息	1,000	0	1,000
特定資産運用益計	1,000	0	1,000
③雑収益			
受取利息	0	366	366
雑収益	0	20,088	20,088
雑収益計	0	20,454	20,454
経常収益計	47,146,419	1,606,902	48,753,321
(2) 経常費用			
①事業費			
支払報酬			0
会議費	2,129,604		2,129,604
旅費交通費	1,297,819		1,297,819
通信運搬費	57,861		57,861
研究助成費	23,874,000		23,874,000
支払手数料	629,856		629,856
支払寄附金	13,000,000		13,000,000
資料収集調査費	725,000		725,000
機関誌発行費	6,268,512		6,268,512
雑費	300,000		300,000
事業費計	48,282,652		48,282,652
②管理費			
支払報酬			0
会議費		42,848	42,848
旅費交通費		273,030	273,030
通信運搬費		57,066	57,066
消耗品費		3,558	3,558
支払手数料		666,188	666,188
賃借料		116,640	116,640
顧問料		259,200	259,200
雑費		188,372	188,372
管理費計		1,606,902	1,606,902
経常費用計	48,282,652	1,606,902	49,889,554
当期経常増減額	△ 1,136,233	0	△ 1,136,233
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			0
(2) 経常外費用			0
当期経常外増減額			0
当期一般正味財産増減額			△ 1,136,233
一般正味財産期首残高			34,707,101
一般正味財産期末残高			33,570,868
II 指定正味財産増減の部			
①基本財産評価益			2,017,999,203
②基本財産評価損			
当期指定正味財産増減額			2,017,999,203
指定正味財産期首残高			3,274,955,497
指定正味財産期末残高			5,292,954,700
III 正味財産期末残高			5,326,525,568

注) 共通費用は公益目的事業会計と法人会計に配賦している。

**財 産 目 録**  
平成31年3月31日現在

(単位：円)

科 目	使用目的等	金額	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	小口現金	131,694	
普通預金 三井住友銀行船場支店	運転資金として使用している。	17,451,426	
現金預金合計		17,583,120	
流動資産合計		17,583,120	
2. 固定資産			
基本財産			
定期預金 北國銀行大阪支店	公益目的保有財産であり、運用益を主に公益目的事業の財源として使用している。	30,000,000	
投資有価証券 ロイズバンク（ユーロ円債）		同上	100,000,000
シルフリミテッド（ユーロ債）		同上	100,000,000
ノムラ・ヨーロッパ・ファイナンス（ユーロ債）		同上	100,000,000
みずほ証券SCBクレジットリンク債		同上	100,000,000
3回ソフトバンクG利払繰延期限前償還劣後債		同上	70,000,000
株式会社デサント株式1,652,743株(時価2,900円)		同上	4,792,954,700
基本財産合計		5,292,954,700	
特定資産			
助成金準備資金	40周年記念事業助成金支払のために積立てている資産であり、特定費用準備資金として管理		
普通預金 三井住友銀行船場支店		6,000,000	
定期預金		10,000,000	
特定資産合計		16,000,000	
固定資産合計		5,308,954,700	
資産合計		5,326,537,820	
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金	源泉税預り金	12,252	
流動負債合計		12,252	
負債合計		12,252	
正味財産		5,326,525,568	

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券については、取得原価によっている。

#### (2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

### 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	30,000,000	0	0	30,000,000
投資有価証券	3,244,955,497	2,017,999,203	0	5,262,954,700
小計	3,274,955,497	2,017,999,203	0	5,292,954,700
特定資産				
助成金準備資金	16,000,000	0	0	16,000,000
小計	16,000,000	0	0	16,000,000
合計	3,290,955,497	2,017,999,203	0	5,308,954,700

(注) 1. 投資有価証券の増加額はデサント株式の期末時価評価による評価差額であります。

### 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	30,000,000	30,000,000	0	0
投資有価証券	5,262,954,700	5,262,954,700	0	0
小計	5,292,954,700	5,292,954,700	0	0
特定資産				
助成金準備資金	16,000,000	0	16,000,000	0
小計	16,000,000	0	16,000,000	0
合計	5,308,954,700	5,292,954,700	16,000,000	0

### 4. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、評価額及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	帳簿価額	評価額	評価損益
投資有価証券			
ロイズバンク（ユーロ円債）	100,000,000	102,290,000	2,290,000
シルフリミテッド（ユーロ円債）	100,000,000	105,220,000	5,220,000
ノムラ・ヨーロッパ・ファイナンス（ユーロ債）	100,000,000	100,200,000	200,000
みずほ証券SCBクレジットリンク債	100,000,000	100,000,000	0
3回ソフトバンクG利払繰延期限前償還劣後債	70,000,000	70,406,000	406,000
合計	470,000,000	478,116,000	8,116,000

# 監査報告書

公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団  
理事長 石本和之殿

令和元年 5月13日  
公益財団法人 石本記念  
デサントスポーツ科学振興財団

監事 篠原 祥哲

監事 高木 茂太市



私たちは、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの事業年度における理事の業務執行及び会計の監査を行い、その方法及び結果について、次のとおり報告する。

## 1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事会及びその他の会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産状況の調査を行った。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討した。

さらに、会計帳簿並びに関係書類閲覧など必要と思われる調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録の妥当性を検討した。

## 2 監査意見

### (1) 事業報告書等の監査結果

- 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。
- 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められなかった。

### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認める。